

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成29年3月27日

計画の名称	5 都市基盤整備による拠点駅周辺の都市機能の拡充			
計画の期間	平成23年度～平成27年度	交付対象	横浜市	
計画の目標				

市民の日常生活の拠点となる鉄道駅周辺において、市街地開発事業等を実施し、交通ネットワーク拠点にふさわしい道路、駅前広場等の都市基盤施設の整備を行うとともに、地区内のバリアフリー化などを図ること
で、誰もが移動しやすく、安全な街づくりを推進する。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・拠点駅周辺における都市計画道路と駅前広場の一体的整備による駅利用者の移動時間の短縮
- ・駅周辺の整備状況に対する市民の満足度

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の現況値及び目標値

	当初現況値	中間目標値	最終目標値	備考
	(H23当初)	(H25末)	(H27末)	
①	-		50%	
②	-		70%	

① ・拠点駅周辺における都市計画道路と駅前広場の一体的な整備による駅利用者の移動時間の短縮
拠点駅周辺における市街地開発事業の実施に伴う、都市計画道路と駅前広場の一体的な整備による都市基盤機能の強化を評価
するため駅利用者の移動時間を従前と従後で比較し、短縮された割合を算出する。

② ・駅周辺の整備状況に対する市民の満足度
駅周辺の来街者等を対象にアンケート調査を行い、駅周辺の整備状況に対して満足している割合（%）を算定する。

全体事業費	合計 (A+B+C)	11,590百万円	A	11,590百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%
-------	---------------	-----------	---	-----------	---	------	---	------	---------------------------	------

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期

事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価（中間評価）の実施時期	平成28年度
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施する予定	公表の方法	横浜市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H23	H24	H25	H26	H27		
											A-1	街路	一般	横浜市	直接		
A-2	街路	一般	横浜市	直接	市住公	再開発	改築	長津田駅北口地区(長津田駅北口線他)	駅前広場0.6ha、駐輪場約800台	横浜市						1,544	
A-3	街路	一般	横浜市	直接	横浜市	組合	改築	戸塚駅前地区中央((都)柏尾戸塚線)	バイパス0.7km	横浜市						3,020	
A-4	街路	一般	横浜市	直接	横浜市	S街路	改築	金沢八景六浦線	バイパス0.1km	横浜市						1,543	
A-5	街路	一般	横浜市	間接	組合	再開発	改築	大船駅北第二地区((都)下永谷大船線他)	駅前広場0.6ha、駐輪場約1600台	横浜市						2,335	
A-8	街路	一般	横浜市	間接	組合	区画	改築	泉ゆめが丘地区((都)環状4号線他)	駅前広場0.39ha、バイパス0.61km	横浜市						1,811	
A-7	街路	一般	横浜市	間接	組合	再開発	改築	瀬谷駅南口第1地区((都)瀬谷駅南口線)	延長120m、駅前広場0.3ha	横浜市						20	
											合計					11,590	

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考						
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
合計														0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考						

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		戸塚駅西口第一地区市街地再開発事業、長津田駅北口地区市街地再開発事業、戸塚駅前地区中央土地区画整理事業の完了により、駅利用者の移動時間が短縮されたほか、大半の来街者が満足している状況となっている									
II 定量的指標の達成状況	指標① 駅利用者の移動時間の短縮	最終目標値	50%	目標値と実績値に差が出た要因	目標設定時において駅前広場の計画変更を見込んだ目標値を設定していたが、移動時間に影響を与える計画変更がなかったことにより、目標値と実績値に差が生じた 市民アンケートによる「事業を行って良かった点」では72.8%の方が「戸塚駅の東西の往来が便利」を選んでおり、アンダーパス道路や歩行者デッキによる利便性や安全性の向上が高く評価された。						
		最終実績値	54%								
	指標② 駅周辺の整備状況に対する外来者等の満足度	最終目標値	70%								
		最終実績値	76%								
	指標③	最終目標値									
		最終実績値									
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		戸塚駅はバス利用者の多い地区であり、バスセンターから駅までの狭い道路が雨天時などは特に高齢者などにとっての負担が課題だった。整備によって屋内を地下やデッキで移動することから利便性や安全性は向上しています。 長津田駅北口は、駅前広場がないことから駅前へのバスの乗り入れがなく、バス圏住民の駅へのアクセスが課題だったが、整備後は駅前からのバス発着により利便性が向上しています。									

3. 学識経験者の意見

・指標については、市街地整備によって地区の課題が解決されたのかを測ることができるものであるべきと考えます。整備により直接的に改善された指標ではなく、整備によって期待する効果についての指標などであれば、指標として分かりやすいと考えます。今後、指標策定にあたっては、その点に留意ください。

・駅前の住宅開発では、周辺から住民の集積に効果があるが、人口の自然増が促進する子育て施設や賑わいの創出なども考慮して整備計画をしていただきたい。

・駅周辺居住者に対するアンケート調査は、整備の効果が表されているものと思われます。アンケート内容では受動的な設問ではなく、能動的な設問にすることで住民の活動をより反映できると考えます。また、アンケートによる満足度調査は、属性(古くから住んでいる人、新たに住んでいる人、住んでいないが、よく来る人、あまり来ない人など)を含め調べた方が、満足度の傾向がよくわかる。

4. 特記事項（今後の方針等）

未完了の事業については、平成28年度に策定した新規の社会資本総合整備計画にて実施し、完了後に効果測定を行う。

(参考様式3)

(参考図面) 活力創出基盤整備

